

社会資本整備審議会道路分科会 平成 28 年度第 3 回中国地方小委員会
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 28 年 12 月 14 日（水）13:00～14:30

2. 場 所

広島合同庁舎 2 号館 7 階共用 5 号会議室

3. 出席者

<委員>

① ふじ わら あき まさ
藤原 章正 広島大学大学院 国際協力研究科 教授

おお たに あつ ろう
大谷 厚郎 一畑電気鉄道株式会社 代表取締役会長

ふく だ きょう こ
福田 京子 地域づくりネットワーク 代表

4. 議 題

- (1) 規約の改定について
- (2) 計画段階評価について
山陰道（木与付近）

5. 結論

山陰道（木与付近）について、「将来の山陰道としての活用も想定した、地すべり地帯を回避する別線トンネルを防災対策として緊急的に実施」するとした対応方針(案)については妥当と判断する。

(その他)

社会資本整備審議会道路分科会 中国地方小委員会運営規則の改定について報告。

6. 委員からの主な意見

(対策案について)

- 地域、道路に関する課題及び当該区間に求められる道路機能について、地域住民や道路利用者、各種団体等、どのグループからも防災面の課題解消及び救急医療機関へ確実に到達出来る機能を求める意見が多数を占めている。また、地域の利用者だけでなく、広域的な利用者からも同様な意見となっているため、山陰道としての機能の他、防災面に考慮した対策が必要とした整理は妥当である。
- 自由意見の分析や少数の意見にも配慮しており、複数のルート帯案を詳細に比較した結果により別線トンネル案とした対応方針(案)は妥当である。
- 昨年度、島根県において落石による死亡事故も発生するなど、道路法面の危険箇所について、道路利用者が走行時に注意するには限界があり、危険箇所を回避するバイパス整備により安全性が確実に確保できる。
- 今後の具体の計画を検討する際には、技術的、コスト、メンテナンスも考慮し進めること。

(その他の意見)

- 起終点部については、今後の具体の計画を検討する際、将来の山陰道として連続性を確保できる形状とすること。
- バイパスを自動車専用道路で整備することに伴い、現道における歩行者・自転車道など、住民の方にとって利便性が損なわれることが無いように可能な限り整備すること。
- QRコードを利用した意見聴取や計画案の情報発信の取組は評価できる。今後はインターネット等が利用しづらい方にも情報が届くようケーブルテレビ等を利用した発信方法も検討してもらいたい。